

1. 国際青少年デー (International Youth Day)

少し前の話になりますが、8月12日は国連の制定した「国際青少年デー」です。2009年の今年のテーマは「サステナビリティ：私達の挑戦。私達の未来 (SUSTAINABILITY: Our Challenge. Our Future.)」でした。

UNFPA ネパール事務所でも、この日を記念して首都カトマンズと5つの郡で様々なイベントを実施、サポートしました。私はその中で、

Today's Youth Asia というメディアグループ主催・UNFPA 支援のスピーチコンテストに出席しました。このコンテストでは約40人の学生が参加しました。13歳から16歳までのジュニア部門、および17歳から24歳のシニア部門に分かれており、参加者はミレニアム開発目標の8つの目標から一つ選択し、それと今年の青少年デーのテーマを絡めて、約3分のスピーチを行いました。

受賞者とジャッジ



私個人の感想としては、みんな若いながらも自分を主張することが上手だと思いました。内容はすべてネパール語だったので理解はできませんでしたが、スピーチ中のジェスチャーや声の抑揚が豊かで、聞いていてもなかなか飽きませんでした。中には、緊張してスピーチの内容を忘れてしまう人もいましたが、ほとんどの参加者は与えられた3分間を大幅に超えることも下回ることもなく、堂々と自信を持って発表していました。

2. 日本国際保健医療学会学術大会への参加

去る8月5、6日、私は仙台で行われた第24回日本国際保健医療学会学術大会に参加するために、久しぶりに日本に帰ってきました。本学会では、参加だけでなく発表も行いました。内容は、UNFPA ネパール事務所が2003年から2006年に実施したEU/UNFPA Reproductive Health Initiative for Youth in Asia (アジアの若者に向けたリプロダクティブヘルスの新たな取り組み) プログラム (通称 RHIYA) の紹介およびそこから学ぶ点などについてです。研究発表というよりは、どちらかといえばプロジェクトの成果発表でした。

RHIYA とは、思春期リプロの改善を目的として UNFPA・EU・NGO が共同で行ったプログラムであり、ネパールを含むアジアの7カ国で、2003年から2006年の3年間実施されました。

発表時間が10分強と限られていたので、プログラム全体について述べることはできませんでしたが、日本にいるだけだとなかなか得られない情報を伝えることができたのでは、と思っております。ちなみに、これは私にとって初めての学会発表だったので、非常に緊張しました…。それでもこの学会で、久しぶりに会った方々、同分野で活躍されている方々など、多くの人に会う機会があり、それは私にとって大きな収穫でした。



UNFPA 東京事務所長の池上さんも本学会に参加されました。まず、学会前日に行われた市民フォーラムでは市民公開講座「国連と市民の連携を考える—国連ミレニアム開発目標の実現をめざして」の講師をされ、学会ではシンポジウム「MDGs 実現に向けた戦略的支援のあり方を探る」では座長を務められ、さらには共同発表として「妊婦死亡率の



Proxy Indicator に関する研究」の発表をされていました。さまざまところに顔を出されて、本当に本当にお疲れ様でした！

この学会は、ちょうど仙台の七夕祭りの時期に行われました。色とりどりの七夕飾りが本当にきれいで素晴らしかったです。ネパールのお祭りもいいけれども、やっぱり日本の伝統行事はいいなあ～、としみじみ感じました。

というわけで、今回はここまで。次回をお楽しみに。

飛田紫峰

